

## 科学読み物講座

子どもに科学の楽しさを  
一絵本から物語・図鑑まで一

講師：福家 めぐみ

(稲城市立稲城第一小学校 学校司書)

学校司書であり、科学読物研究会会員である福家めぐみ先生をお招きし、科学読み物が学校図書館でどのように読まれているのか、おすすめの図書や展示の様子を紹介していただき、子どもたちに気軽に科学に親しんでもらう取り組みについて学ぶことができました。

## 1. 「うち」の学校に限って言うと

科学読み物の定義はまだ定まっていません。自然科学の本がメインですが、それ以外の分野でも科学的な視点に立って書かれている本を含めて、広義に解釈する立場でお話します。

うちの学校で人気のあるシリーズには『ふしぎいっぱい写真絵本』、『しぜんにタッチ!』、『見ながら学習調べてなっとく』、『まんがでよくわかる(ひみつシリーズ)』、『学研のクイズ図鑑』などがあります。

図鑑は館内閲覧に制限されることが多いですが、なるべく借りられるように工夫しています。子どもは科学の本を特別視せず、大人の図鑑も借りていきます。図鑑に限らず「子どもはこういうのが好き」というこちらの想定のはるか上に行くことが多く、驚かされます。

図鑑を「読んでいる」子どもを見ていると、単なる知識の羅列を読むのではなく、体系を知る機会を得ているのではないかと感じます。



## 2. 巨人の肩に乗ろう!

科学読物研究会の著作の本や、自身が編集に加わった『りかぼん 授業で使える理科の本』では一定の評価のある科学読み物が紹介されています。配布資料「科学読み物リストの本」と「科学の本ってこんなにおもしろい」をご覧ください。

巨人(=一定の評価があり、定番となっている本)のひとつである『センス・オブ・ワンダー』(レイチェル・カーソン著)の一節、「神秘さや不思議さに目を見はる感性」をご紹介します。

“「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちが会える事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕す時です。”

子どもと一緒にどうしてかな?と考えることが大事です。「間違えてもOK、失敗なんてなんのその!でも、もっと違うやり方があるのかも」、こういった考え方が科学的なものの見方「?を!に」につながっていくのではないのでしょうか。

その他に配布したブックレット『科学道100冊ジュニア』は理化学研究所と編集工学研究所が科学の面白さ、深さ、広さが伝わる本を選んだものです。ビジュアルで目を引かれるものが多いです。

### 3. たくさん手に取ってみてね

図書室では授業と勝手にコラボしてミジンコを育て、教材としても提供しています。紫色のねこじゃらしや石、身近な、でも意外と知らない果実、ミウラ折りなどの実物を置き、本と実物を行き来するきっかけを作っています。

科学の本に対する読書の動機づけとしての科学あそびを紹介する本の中から『**かがくが好きになる絵本 100**』、『**かがく 緑日と本読み隊**』、『**先生はマジシャン 1~3**』をお薦めします。『先生はマジシャン』の著者の野呂茂樹氏は誰かが考案したものを更に工夫する場合、必ず出典を明記されています。

また、上野動物園で生まれたパンダのシャンシャンの新聞・雑誌記事を本と一緒に紹介しています。「国際宇宙ステーション『きぼう』をみよう」というインターネットのサイトを紹介することもあります。

科学はまだ分かっていないことが多いです。分かっていること、分かっていないことを区別することが、情報リテラシーを身に付けるためにも重要だと考えています。そのためには読み比べることが大切です。

かこさとしさんの「恐竜にあえて色をつけない」「賢くならないと間違っただとは感じない」(中略)まず、ものの道理を知ることが大切」という言葉に頷かされます。



### 4. 読み手である今の自分にとって、やさしくてももしろい本を探そう

「購入の指針はないか？」とよく聞かれます。読む人の年齢や文字の大きさ、文字数、判型、装丁を見て難易度を決めるのではなく、読み手の経験値や意欲に合うことが大事です。その場限りではない「ワクワク」する気持ちが一番大切です。もちろん学校図書館としては、新学習指導要領(平成29年3月公示)を視野に入れた上で、常に様々な最新情報を入手しておかねばなりません。

#### 終わりに

子どもが完全に理解できない図書があってもいいと思います。その本の良し悪しは、読み手の意思にまかせるべきと考えています。巨人の肩に乗って、たくさんの本を読むこと、複数の本を読み比べることで、自分なりの選書基準ができてくると思います。

ぜひ配布したリストの同じテーマの中から2、3冊比べ読みをしてみてください。もし科学の本を読むのが好きでなくても、科学の本を好きな人(科学読物研究会)と繋がればいいと思います(笑)。



【講座終了後、会場に展示された、先生が紹介されたリストの本と『科学道 100冊ジュニア』に掲載された本を、講座の参加者が手に取り、先生とお話をする時間が設けられました。】